

2009年10月2日

財務大臣 藤井 裕久 様

下川自然を考える会会長 千葉 永二
サンルダム建設を考える集い代表 渋谷 静男
名寄サンルダムを考える会代表 竹内 和郎
サンル川を守る会代表 橋本 泰子
ネットワーク旭川地球村代表 山城 えりこ
北海道の森と川を語る会代表 小野 有五
大雪と石狩の自然を守る会代表 寺島 一男
旭川・森と川ネット21代表 平田 一三
(社)北海道自然保護協会会長 佐藤 謙

今年度のサンルダム本体工事着工予算の差し止めと 来年度概算要求での凍結の要望書

このたびの政権交代を心からお慶びするとともに、民主党を中心とする政権に期待を申し上げます。

私たちは、別紙9月29日付けで前原国交相宛に、北海道の平取ダム・当別ダムとともに天塩川水系のサンル川に計画されているサンルダム計画の凍結・見直し再検討を要望しました。同時に18名の北海道選出の民主党国会議員にも同じ趣旨を要望しました。

私たちは、サンルダムに関しては、ダムによらない治水と利水は可能であり、サクラマスを中心とする環境を守ることが重要と考えているものです。昨年の秋に、財務大臣(担当は主計局第一係り)に、本体工事着工予算をつけないよう要望いたしました。財務省は、漁協の同意を条件に予算をつけましたが、今年5月に漁協は、「北海道開発局がサクラマス保全のために計画している魚道の効果が認められるならば同意する」という条件付き同意を示したため、本年度後半に本体工事着工予算(1億円あまり)が執行されようとしています。

しかし、私たちは漁協の同意内容に問題があると考えています。開発局が示した案は、サンルダムを建設後に魚道の効果を検証するというものです。少なくとも日本ではいままで、魚道整備によってサクラマス資源が保全されて例はありません。私たちが開発局に、魚道の効果が認められなければダムを撤去するのか質しても、回答は得られませんでした。私たちは、税金の無駄遣いをなくすためにも、まず魚道試験を行って、その結果によってダム建設の是非を検討すべきだと考えています。そのため、少なくとも魚道試験の効果が明らかになるまで本体工事の着工はすべきでないと考えています。このことについては、すでに別紙6月19日付け財務大臣宛の要望書で述べています。

開発局は、魚道予算は約 8 億円と述べています。8 億円の予算を使って、魚道の効果がな
いと判明すれば、8 億円は無駄遣いとなりますが、先にダムを建設し、無駄なダムとわかれ
ばはるかに大きな無駄遣いとなります。

ダムは、50 年とか 100 年に一度の洪水を防ぐために建設するといわれますが、100 年に
一度以外の時期は常に河川環境は悪化し続けていき、海岸は削られていきます。その環境
回復ための予算も無駄といえます。最近、ダムによらない治水が重要な考え方となっ
ています。私たちはダム中止を望んでいますが、少なくとも凍結・見直しを行って、無駄で
環境破壊のダムについて民意を反映した結論が出されることを要望いたします。

なお、仙谷由人行政刷新大臣にも同様な要望書を提出したことを申し添えます。

大臣におかれましては、たいへんご多忙とは存じますが、私たちの要望についてのお考
えをお示しいただくようお願いいたします。ご回答は、2009年11月30日までに、要望書の
事務局を担当している北海道自然保護協会（〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 11 丁目、
加森ビル 6F、Tel&FAX : 011-251-5465）宛に、文書によっていただけますよう、重ねてよ
ろしくお願いいたします。